

## 基調講演

主催：渥美国際交流財団関口グローバル研究会（SGRA）

## 「Space and Distance 空間と距離」

内藤 廣

建築家・東京大学名誉教授・多摩美術大学学長

2026年8月26日（水）16：20～16：50

言語：日本語（英語同時通訳付き）

会場：東北学院大学五橋キャンパス押川記念ホール

生成 AI の出現により言語の壁が取り払われる時代が近づいています。

言語は文化の基層をなすもので、異なる文化は異なる基層を持っています。それをなんとか越えて相手を理解しようとするのが文化交流です。例えば、本居宣長が言った「もののあわれ」をこの風土に暮らしたことの無い外国の方に理解してもらうには大変な労力が要ります。一方で、その壁が取り払われた未来を想像することはとても楽しいことです。

私は今、美大の学長を務めています。芸術もデザインも直感的に相手の心を掴もうとします。ここで言語が果たす役割は極めて限定的です。芸術もデザインも言語を抜きにした人間同士の相互交流です。感動することを通して理解が深まり、「空間と距離」は格段に近くなります。

アジアにはたくさんの言語の基層が存在します。芸術やデザインはこれまでこれらの相互理解の役割を果たしてきました。この先、この言語の壁を超えた相互理解を生成 AI がさらに進めてくれることを期待しています。新しい技術の登場によって人と人との相互理解、異なる文化の基層をもつ文化と文化の「空間と距離」がこれまで以上に近くなる時代を迎えつつあります。

私の専門は建築です。もちろん建築は芸術とデザインと深い関係を持っています。建築もこの流れと無縁ではあり得ません。新しい時代の「空間と距離」について、みなさんと共に考えてみたいと思っています。

## 内藤 廣 NAITO Hiroshi

建築家・東京大学名誉教授・多摩美術大学学長

1950 年生まれ。1976 年早稲田大学大学院修士課程修了後、フェルナンド・イゲラス建築設計事務所（スペイン・マドリッド）、菊竹清訓建築設計事務所を経て、1981 年に内藤廣建築設計事務所を設立。2001～11 年東京大学大学院工学系研究科社会基盤学専攻にて教授、同大学にて副学長を歴任。2011 年～同大学名誉教授。2007～09 年にはグッドデザイン賞審査員長を務め、2022 年からは日本デザイン振興会の会長を務める。また、2023 年 4 月からは多摩美術大学学長。主な建築作品に、海の博物館、牧野富太郎記念館、島根県芸術文化センター、静岡県草薙総合運動場体育館、富山県美術館、とらや赤坂店、高田松原津波復興祈念公園 国営追悼・祈念施設、東京メトロ銀座線渋谷駅、京都鳩居堂、紀尾井清堂など。

主要書籍：『内藤廣と若者たち 人生をめぐる一八の対話』鹿島出版会/2011 年、『建土築木 1 構築物の風景』鹿島出版会/2006 年、『建土築木 2 川のある風景』鹿島出版会/2006 年、『内藤廣の頭と手』彰国社/2012 年、他。

